



ガザの地を戦争で知る冬来たる

和田のり子

これまで聞いたこともなく、全く関わりもなかった国や地域の名前を、こんなことで知るなんて。その地に暮らす人々の一日、一日を思う。



拙宅の補正予算で熊手買ふ

田中やすあき

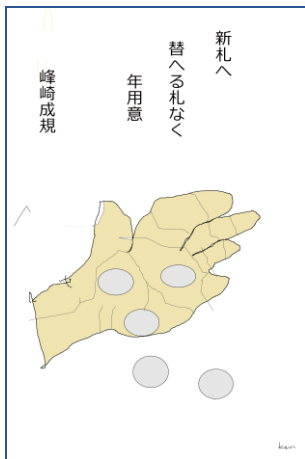
予定外の物を買ってしまった楽しさが描かれた。補正予算という大袈裟な用語を使ったところが愉快である。「大蔵省との交渉妥結熊手買ふ」。



跡形もなく蟋蟀の食はれけり

小泉和子

交尾の後、雄が雌に食われてしまうのは蟋蟀の世界の常である。作者によれば、脚一本残らず、雄は完全に存在を消されたそうである。



新札へ替へる札なく年用意

峰崎成規

キャッシュレスの時代だが、年玉や心付けなどはやはり現金で渡したい。お金を包む、祝儀は新札で渡すというのは、日本人の繊細な感性である。



古典的貌に行きつく菊人形

工藤泰子

時代によって、国や地域によって「美」の基準は変わる。菊人形もその時どきで顔が変わる。個人的な好みもあるが、古典には普遍性があるね。



霜柱踏まねば損をするやうな

北熊紀生

霜柱を踏む楽しさは、破壊を体感できること。あの感覚は他では得難い貴重なものである。踏まねば損という気持ちが正直に表現されたね。